

令和3年度文部科学省
学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

東北ブロック
共に学び、生きる共生社会
コンファレンス

分科会 1 文化芸術を通じた障害者の生涯学習 ～地域と溶け合う学びに向けて～

●ファシリテーター

NPO法人エイブル・アート・ジャパン
柴崎由美子

A B L E
A R T
J A P A N

【分科会 1】 文化芸術を通じた障害者の生涯学習 ～地域と溶け合う学びに向けて～

〈本分科会の趣旨〉

東日本大震災のあと、行政や組織、コミュニティの区分が一度解体され、その再構築に取り組んだ東北。すべての人が被災者である中、“障害”に対する捉え方も変わってきているのではないのでしょうか。本分科会では、人の心を動かし、物事の見方に化学変化を起こす作用がある「文化芸術」にスポットをあて、「表現」を通じて人の心や自分の想いを表出させる活動を事例に、互いに学びあうことを目的とします。

〈内容とタイムスケジュール〉

①プロローグ【13:00~13:40】

- ・本分科会の趣旨説明（10分）

- ・田崎飛鳥さん(陸前高田市ノーマライゼーション大使)のドキュメンタリー部分上映(約20分)

提供：日本博オープニング映像/協力：岩手県社会福祉事業団

※キーワード

こころの世界をあらわすアート

②事例1【13:40~14:10】※質疑含む

- ・松田文登さん（株式会社ヘラルボニー）

「異彩を解き放つ、アートの可能性」

※キーワード

優れたアートの活用/多様性のイメージを変える様々な取組み

陸前高田高校での取組み/ソフト面での変化/障害理解

〈内容とタイムスケジュール〉

③事例2【14:30~15:00】※質疑含む

- ・田口ひろみさん・引地奈美さん（NPO法人ポラリス）

「こぐまサロンへの道のり」

※キーワード

文化芸術を通じた心と身体の立ち上がり

NPO法人化とすべての人の学びの場実践/障害を「価値」へ

地域ぐるみの共生社会づくり(被災された方も含んで)

住民主体のまちづくりに障害のある人がどうかかわれるか

行政との協働/今ある資源を活用して

④対話セッションとまとめ【15:00~15:40】

- ・田崎飛鳥さん・實さん（アトリエ田崎）

岩手大学等のグローバルキャンパスとの協働

- ・ヘラルボニー、ポラリスの事例を踏まえた対話セッション

〈事例報告をきくためのこころの準備〉＊

1. びっくりしすぎない。
2. うらやましがりすぎない。
3. できるヒントを探そう。
4. わくわくしてみよう。

＊第3回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市
「きいて、みて、して、オンライン見本市。」
プログラム3 [障害のある人たちのまなび×芸術文化]
事例報告をきくためのこころの準備 櫻井育子(生涯発達支援塾TANE/宮城県)資料より

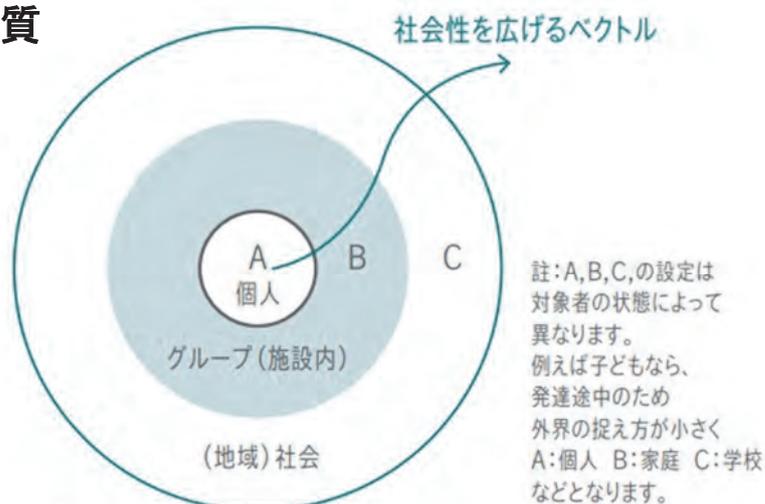
〈文化芸術を通じた障害者の生涯学習〉

視点 1

アートをする「環境」に着目して広げる
障害者の生活・人生の質

鈴木理恵子

女子美術大学准教授
アートミーツケア学会理事



図：ソーシャル・ウェルビーイング・サークル

〈文化芸術を通じた障害者の生涯学習〉

視点 2

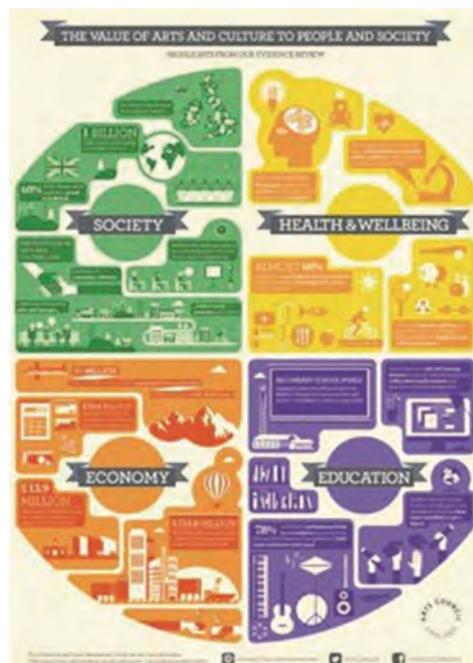
障害者の芸術活動、その価値の視点をきりひらく

柴崎由美子

アーツカウンシル・イングランドによる資料「芸術文化が人と地域に与える価値」（原文：THE VALUE OF ARTS AND CULTURE TO PEOPLE AND SOCIETY）。このここに示された4つの切り口は、〈障害のある人による芸術文化〉にも通じるのではないかと考えています。

・健康と福祉／HEALTH & WELLBEING

芸術文化活動が、生活リズムを整え、精神衛生によりよく影響することがあります。この「WELLBEINGウェルビーイング」という言葉は、「福祉」という言葉に訳されますが、その語源からは「充実した状態」、意識すると「よりよく生きる」という言葉におきかえることができます。私たちは、作品を語ることに以外に、芸術文化の取り組みを、健康と福祉の観点からも大切にみつめなければならぬのではないのでしょうか。



・教育／EDUCATION

芸術文化活動は、こころの自由を守り、自分の尊厳を育む大切な活動です。また、ひとつとして正解がない表現の探求は、人はちがうという前提にたちながら、他者を理解しようとする創造性を育み、思いやるこころも育てます。

・経済／ECONOMY

芸術文化活動は、その価値が経済的対価となる場合もあります。ポラリス、ヘラルボニーやエイブルアート・カンパニーの実践は、これを具体的に証明しています。

・社会／SOCIETY

芸術文化活動は、社会をかえることもあります。障害のある人たちが持つ力、作品の魅力、またその人と作品を取り巻く人たちのエネルギーから、障害のある人たちの社会的イメージがかわり、役割がかわり、地域社会の変化を促すこともあります。



出典：平成28年度 障害者の芸術活動
支援モデル事業@宮城(SOUP)報告書
(* 令和4年1月6日一部編集)

〈付属資料〉

●プロフィール

柴崎由美子（しばさき・ゆみこ）
宮城県仙台市生まれ

2011-現在 NPO法人エイブル・アート・ジャパン（東京/東北）

〈障害者芸術活動支援センター@宮城〉運営
仙台市文化プログラム運営〈オープンアトリエ/造形・人形劇〉
〈アクセス・アート・センター〉設立準備
障害者の生涯学習に関する地域ネットワーク構築事業

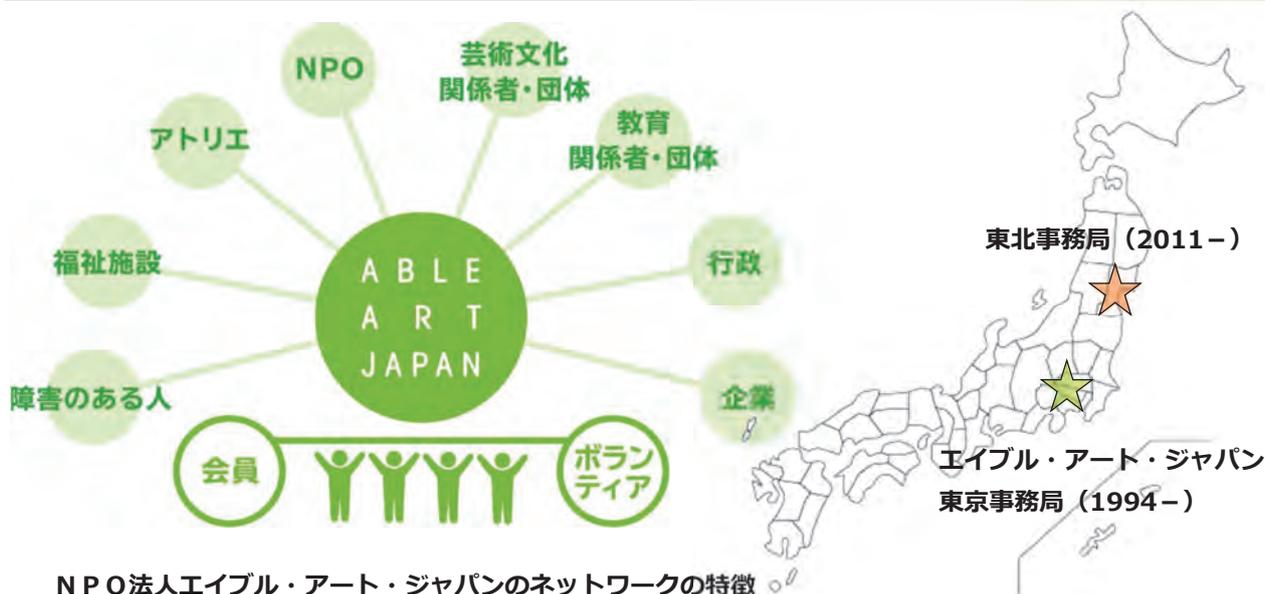
1997-2011 たんぽぽの家（奈良）

美術大学を卒業後、社会福祉法人のスタッフとして、送迎&宿泊&ナイトプログラム&バザーや盆踊り・クリスマス会を全力で運営。生活介護事業、就労継続支援B型事業のサービス管理責任者も担当した。

また、現場の傍ら、障害のある人の芸術文化活動に関するフォーラムやセミナーの企画運営、書籍編集、国際交流、アートセンターHANA開設、アーティストインレジデンス、エイブルアート・カンパニー設立、プライベート美術館などの企画運営に関わる。

●エイブル・アート・ジャパンは、「社会の芸術化、芸術の社会化」をキーワードに活動するNPO法人です。

さまざまな立場の人やグループ・団体会い、交流する機会をつくり、社会変革につながる共感や感動を生み出すことを目標に、Empowerment可能性を広げる、Createつくりだす、Networkつなぐ・つながる、Access参加する、Advocacy支援する、5つの領域をもとに活動を実践しています。



NPO法人エイブル・アート・ジャパンのネットワークの特徴

オープン
アトリエ
1995～



▲オープンアトリエ@東京

人材育成
1996～



▲セミナー、ワークショップなど

鑑賞支援
1997～



アワード
1998～



▲画材支援・展覧会支援

著作権
マネジメ
2007～



▲トヨタ自動車株式会社× Able Art Company

ギャラリー
2011～



東日本大震
災復興支援
2011～



〈わたし/わたしたちの活動のテーマ〉

1. 障害のある人が、
アート活動ができる環境をつくる。
2. 障害のある人が、
アートを発信し、仕事につなげることが
できる環境をつくる。
3. 障害のある人が、
いつでもどこでも、芸術文化にアクセス
することができる環境をつくる。

田崎 飛鳥 (画家・陸前高田市ノーマライゼーション大使)

PROFILE



1981年埼玉県生まれ、陸前高田市在住。あすなろホーム所属。

中学生の時に母親の故郷である陸前高田に家族で移住。知的障害を持ちながらも、幼い頃から絵を描くことに熱心でした。津波からは家族と共に九死に一生を得るも、自宅は流され、200点以上の全ての作品が流失し、仲の良かった近所の人々も大勢が犠牲になり、震災後しばらくは、ショックで絵を描くことができませんでした。のちに亡くなった人がフクロウとなって街を見守る姿や、かさ上げが進み変わっていく街の風景を鎮魂の思いと共に震災を題材とした絵画を中心に創作活動を再スタートしました。数々の展示会に積極的に出品、油彩画やアクリル画などのペインティングを中心に、独特な濃い色遣いと、力強い筆致で描いています。モチーフの多くは、家族をはじめとする身近な人たち、また幼い頃から親しみ愛している動物たちです。数年前からは震災のテーマを離れ、幸福を呼ぶというフクロウ等を身近な人たちの安らぎを願って描いてきました。

現在は、初めて乗った飛行機から見た富士山に魅了され、心の感性でその姿を表現しています。



飛鳥
サロン

TOP

PROFILE

GALLERY

REPORT

TOPIX

GAGANICO

PLACE

「障害者」という人物はこの世に一人もいないということ



創業者紹介

代表

東京在住

松田崇弥

副代表

岩手在住

松田文登

Forbes

30
2019
UNDER 30
MONTBLANC

『Forbes JAPAN』誌が選ぶ、世界を変える30歳未満の30人

「30 UNDER 30 JAPAN 2019」ソーシャルアントレプレナー部門 選出。

障害のある人は、世界に**10**億人以上

※知的障害のある人は2億人



ストーリー



異彩を、放て。

知的障がい。その、ひとくくりの言葉の中にも、無数の個性がある。
豊かな感性、繊細な手先、大胆な発想、研ぎ澄まされた集中力・・・

MISSION

“普通”じゃない、ということ。それは同時に、可能性だと思う。

僕らは、この世界を隔てる、先入観や常識という名のボーダーを超える。
そして、さまざまな「異彩」を、さまざまな形で社会に送り届け、
福祉を起点に新たな文化をつくりだしていく。

福祉実験ユニット **ヘラルボニー**

契約福祉施設（抜粋）

2000点以上の
アート作品のアーカイブが
全国の福祉施設より集結。

北は岩手、南は沖縄、海外はボストン。
国内外の30以上の福祉施設・団体・個人との契約。
御社の要望に応じたアート作品を提供します。

Swing (京都府)



アトリエやっほう!! (京都府)

アトリエブラヴォ

ボストン
(海外)

やまなみ工房 (滋賀県)



るんびにい美術館 (岩手県)



たむたむ
多夢多夢舎中山工房 (宮城県)



はじまりの美術館 (福島県)



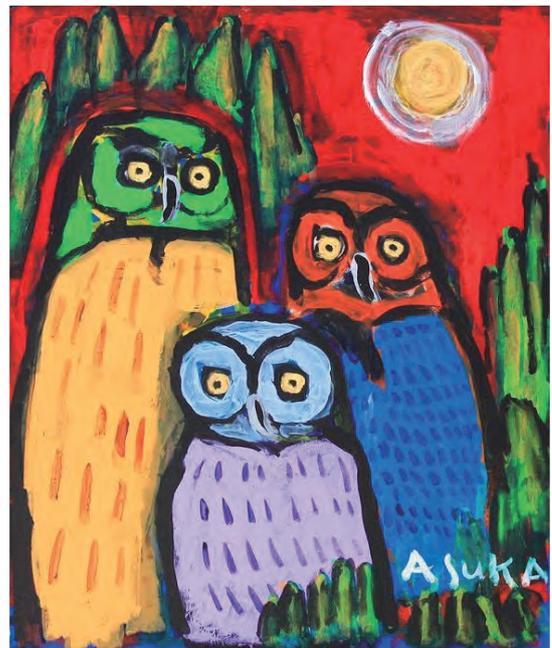
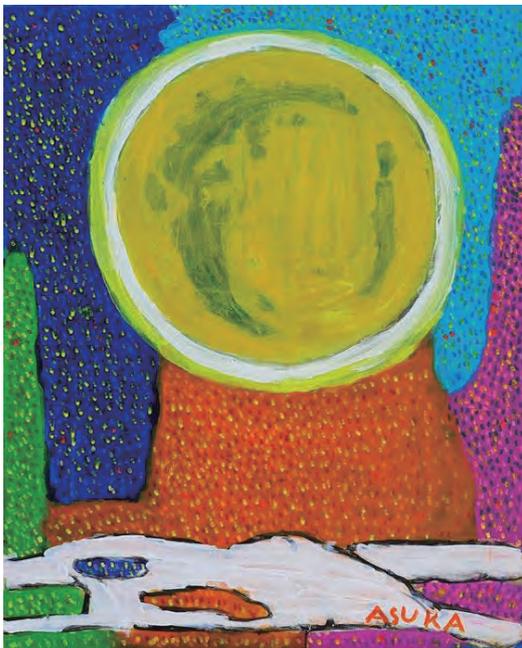
じねんじょ
自然生クラブ (茨城県)





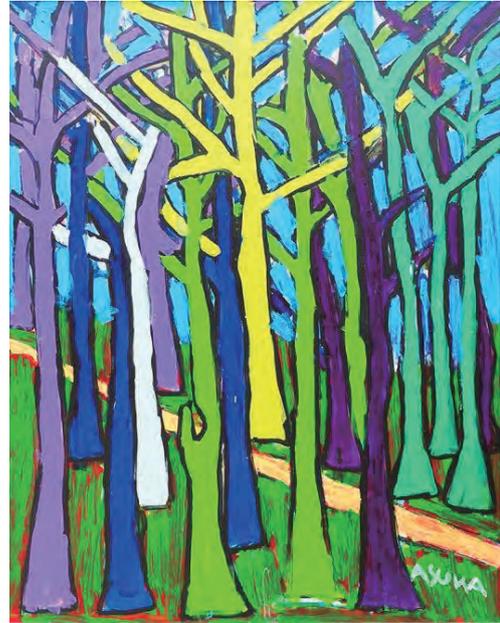
田崎飛鳥 ASUKA TAZAKI

陸前高田市在住。彼は生まれながらにして、脳性麻痺という知的障害を持つ。幼いころから絵本や画集に興味を持ち、彫金作家である父、實さんの勧めで絵を描き始めるとその才能は伸びていき、アート展では賞を受賞するまでに。東日本大震災の津波により、自宅、今まで描いてきた約200点の絵、親しんできた豊かな自然とそこに住む人々…かけがえのない大切なものを一瞬で失い、あまりの衝撃と悲しみから、ショックで一度は筆を置いてしまったが、父からの言葉で、再び筆を取り壮絶な経験を経て今まで多くの観る人の心を動かす。



田崎飛鳥 ASUKA TAZAKI 岩手県出身

陸前高田市在住。彼は生まれながらにして脳性麻痺と知的障害がある。幼いころから絵本や画集に興味を持ち、彫金作家である父、實さんの勧めで絵を描き始めるとその才能は伸びていき、アート展では賞を受賞するまでに。東日本大震災の津波により、自宅、今まで描いてきた約200点の絵、親しんできた豊かな自然とそこに住む人々…かけがえのない大切なものを一瞬で失い、あまりの衝撃と悲しみから、ショックで一度は筆を置いてしまったが、父からの言葉で、再び筆を取り壮絶な経験を経て今まで多くの観る人の心を動かす。



田崎飛鳥 ASUKA TAZAKI 岩手県出身

陸前高田市在住。彼は生まれながらにして脳性麻痺と知的障害がある。幼いころから絵本や画集に興味を持ち、彫金作家である父、實さんの勧めで絵を描き始めるとその才能は伸びていき、アート展では賞を受賞するまでに。東日本大震災の津波により、自宅、今まで描いてきた約200点の絵、親しんできた豊かな自然とそこに住む人々一かけがえのない大切なものを一瞬で失い、あまりの衝撃と悲しみから、ショックで一度は筆を置いてしまったが、父からの言葉で、再び筆を取り壮絶な経験を経て今まで多くの観る人の心を動かす。

障害者だ。と同じ人間なんだ
 第一小学校 四年 松田 文登

ぼくのお兄ちゃん、前は、前沢養子学校に通って
 います。障害といっても、手や足が悪いの
 なく、自閉しようという障害です。

お兄ちゃん、かんたんな言葉しかわかり
 ません。お兄ちゃんに学校のことを聞いても
 そんなに言葉がかわい、てきません。とにかく
 自分の好きなことしか言いません。でも、お
 兄ちゃんとも、と話をしたいから、たくさん
 話かけるようにしています。

お兄ちゃんには、こたわりがありません。車
 に乗る時は、かならず助手せきにすわります。
 食事の時は、せきが決ま、てい、るし、食、で、る
 物や順番まで決ま、てい、ます。写真が好きで
 お兄ちゃん、かいる時は、せ、たいに見せてく
 れません。もしせきを、たりしたら、皮がむ
 けるほど、つわられるので、ぼくもつわりかえ
 して、ケンカになります。

そんなお兄ちゃん、ただ、す、い、な、あ、と、思

文部科学省
令和3年度 学校卒業後における学びの支援に関する実践研究事業

「山元こぐまサロン」を活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト

こぐまサロンへの道のり



宮城県山元町



特定非営利活動法人ポラリス

NPO法人ポラリス

「こぐまサロンへの道のり」

1. アートによる生きる力の取り戻し
2. NPO法人化とすべての人の学びの場実践
3. 障害者の学びの場が創造する価値

障害を「価値」へ

「山元こぐまサロン」（毎月1回開催）

5つのプログラム

1. 町の人と学ぼう
2. ゆるっと哲学 ～地球のこと～
3. みんなはどうしてる？
4. ICT体験倶楽部
5. 保護者カフェ

見えてきた6つの「価値」 ➡

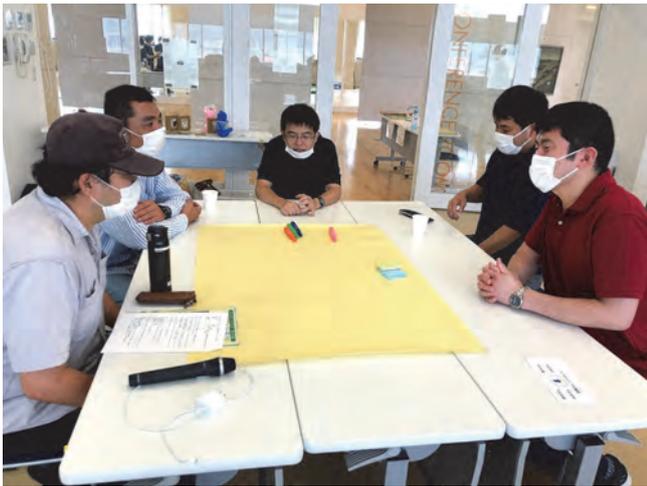
その1. 当事者性を探求する



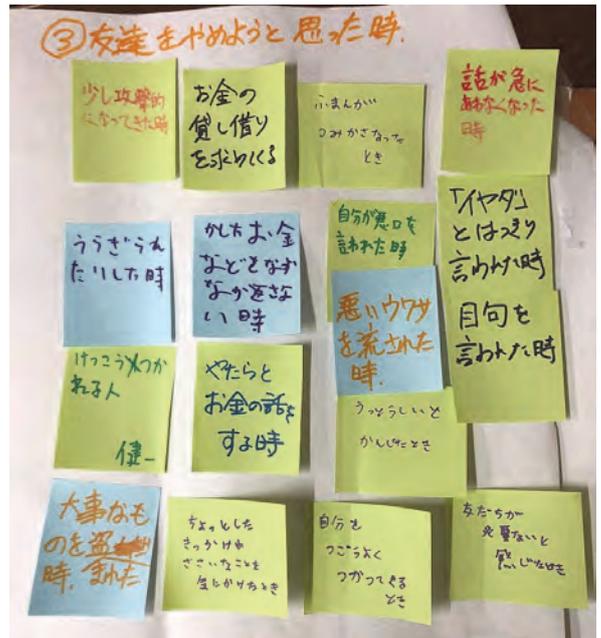
「インドのお兄さんと話そう」の様子

- ・当事者が役割を持って運営に参加することで学びの楽しさを創る
- ・「質問が毎回山ほど出てくるってすごい！」（講師より）

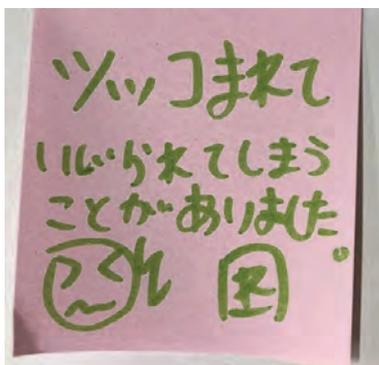
その2. 学びのレディネスを育む



当事者×相談支援専門員 互いに学び合う



自分の考えをふせんに書く
グループで話し合う
発表する



プログラム3. 「みんなはどうしてる？」
(お金の使い方/友達づきあい/異性との付き合い方)

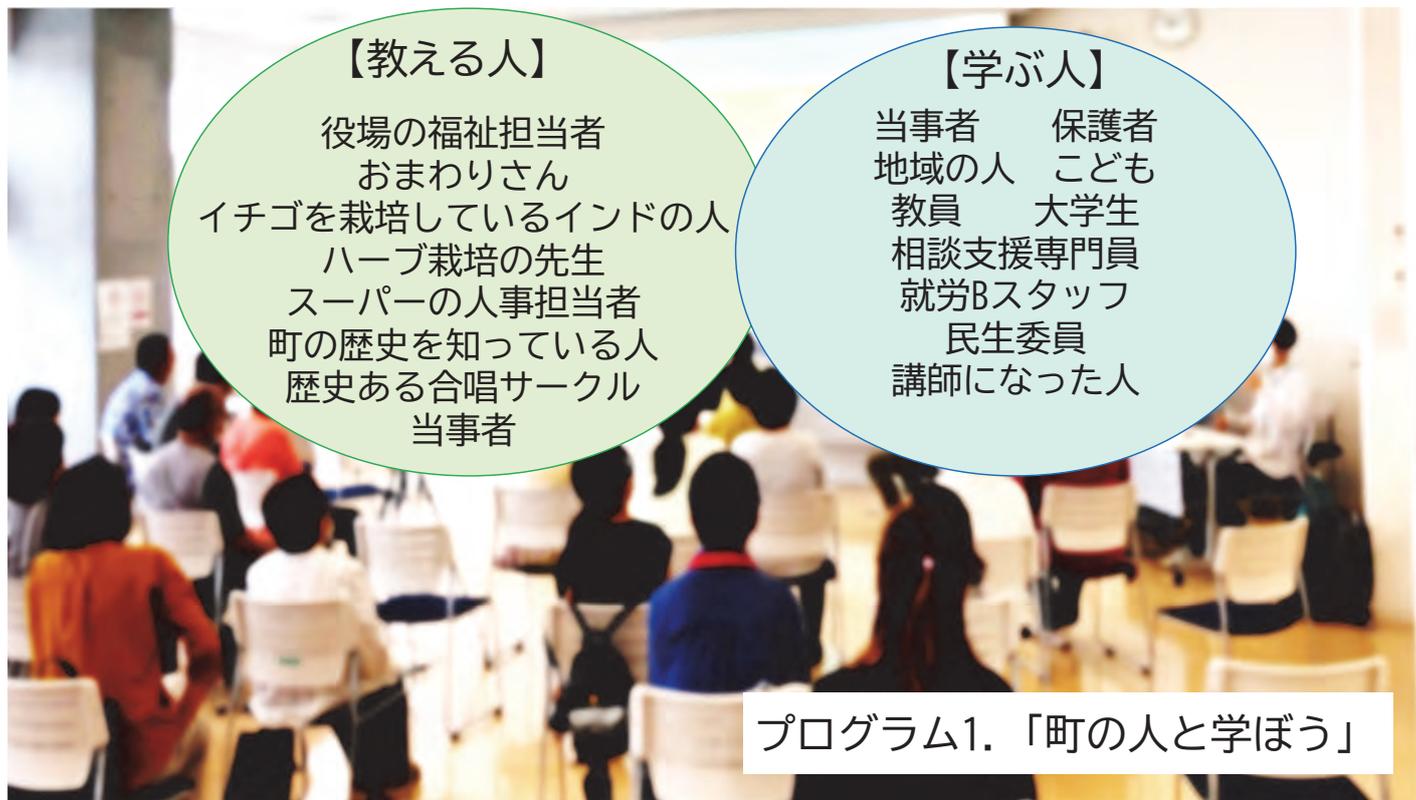
その3. 公共施設(社会教育施設)を活用できる



防災・交流センター「ひだまりホール」にて毎月開催

その4. ユニバーサルな学び

・誰にとってもわかりやすい学びの場



その5. 家族の変容を追いかけていく場

ピアサポートの場を通して
傾聴力をアップしよう

参加者 保護者
相談支援専門員
傾聴ボランティア

民生委員
大学の先生



プログラム5. 保護者カフェ

その6. 学び、そして共生社会を共創する



成果: 今まで触れ合う接点の機会がなかった人がこの場に集まって同じ土俵で学び合うことでもっと開かれた。

